

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 9 日現在

機関番号：14101
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21530797
 研究課題名（和文）新教育運動における心身論
 研究課題名（英文）Mind-Body theories in New Education

研究代表者

伊藤 敏子（ITO TOSHIKO）
 三重大学・教育学部・教授
 研究者番号：20269129

研究成果の概要（和文）：新教育運動における「感性教育」と「身体教育」の関わりについて、その教育構想の形成には従来から指摘されている生活改革運動の実践や生の哲学の理論からばかりではなく、精神医学からの影響も大きかったことが判明した。また、新教育運動における「感性教育」と「身体教育」の関わりについて、その研究対象はこれまで運動の担い手によって設立された私立学校に集中されがちであったが、公共政策と連動して教育構想を発展させた事例に注目することで、より広範な作用関係を解明できた。

研究成果の概要（英文）：Mind-Body theories in New Education derive, as has often been pointed out, from philosophy of life and practices of life reform movement: body as expression of soul. However, they also descend from contemporary medical thinking. It is often said that the children from disadvantaged families were left without benefit of New Education, while the children of well-to-do middle-class families, who attended private schools founded by the supporters of “child-centered education”, benefited from New Education. But there were several followers of the New Education Movement who insisted that children from disadvantaged families needed to benefit as well.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：教育思想

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：新教育運動・心身論

1. 研究開始当初の背景

(1) これまでの新教育運動についての研究においては、その科学的側面（知的教育のための教授法としての新しさ）に焦点が当てられることが多く、その感性的側面（感性教育のための陶冶法の新しさ）やその身体的側面

（身体教育のための陶冶法の新しさ）については二次的な位置づけしか与えられてこなかった。しかし、新教育運動の標語ともいえるべき「児童中心主義」は、その本質において科学的なものの重視よりもむしろ心的霊的なものに代表される感性的なものの再規定

および心的霊的なものと相即不離である身体的なものの再評価という当時の時代思潮に大きく依拠している、と視点がより妥当であると考えられる。

(2)この視点は、教科役割分担的発想を超えてリテラシーの獲得を目指す今日の教育の趨勢にも援用の可能性をもちうると推測される。

(3)研究者は1990年代半ばから新教育運動における「感性教育」に焦点化された思想史研究を行ってきたが（たとえば [1] Toshiko Ito: Die Vervollkommnung der Individualität. Erziehungsideal und Reformabsichten in Japan. In: Zeitschrift für Pädagogik. 38. Beiheft, 1998, S.225-238、[2] 伊藤敏子:「田園教育舎運動における内面的修養の問題」『教育哲学研究』84号所収、2001、54-70頁）、2000年代半ばからは新教育運動における「感性教育」と「身体教育」の密接な関係に注目し始め（たとえば [3] Toshiko Ito: Reformpädagogik aus dem Osten? Körperauffassung und Körpererziehung. In: Paedagogica Historica. 42, 1/2, 2006, S.93-107）、以降、両者の関係性に比重を置いた研究を進めている。

2. 研究の目的

(1)多くの新教育運動家を感化したといわれるエギディを基点として「感性教育」と「身体教育」の連関を整理するため、エギディおよびその主張への共感者に関する第一次史料に可能な限りあたり、生活改革構想と教育構想との連関に対する考察を深めるとともに、その精神構造から導き出される「感性教育」と「身体教育」のあり方を、理論および実践の両面から解明する。

(2)「生きられた身体」というキーワードで現在の教育言説で注目されている身体性の捉え方が、エギディの教育理念およびエギディの教育理念を継承した新教育運動家たちの教育実践さらに彼らが設立して現在も残る学校の教育実践のなかにどのように反映されているかを検証する。

3. 研究の方法

(1)日本・ドイツ・スイスにおいて、新教育運動家によって設立された学校の資料館および国立公文書館に足を運び、第一次史料を収集する。

(2)隣接するテーマを扱うプロジェクトの研究員と情報交換を行うことにより、本テーマに重層的にアプローチする。

4. 研究成果

(1)新教育運動における「感性教育」と「身体教育」の関わりについて、「ネットワーク」と絡めた考察を行うなかで、「他者」と「自己」をキーワードとする再考の可能性を提示できた。

(2)新教育運動における「感性教育」と「身体教育」の関わりを宗教性という文脈で読み解くなかで、東ヨーロッパおよび東アジアにおける「文化性」をめぐる新しい視座を獲得できた。

(3)新教育運動における「感性教育」と「身体教育」の関わりは、新教育運動の主たる担い手である私立学校に注目して考察されることが多かったが、公共政策（社会政策および福祉政策）との連関を視野に入れることによって、私立学校に関わる富裕階層の子女だけでなく貧困階層の子女に対する作用史を概観することができた。

(4)新教育運動における「感性教育」と「身体教育」の関わりについて、新教育運動家たちは従来から指摘されている生活改革運動の実践や生の哲学の理論からばかりではなく、前世紀転換期に注目されていた精神医学の新しい成果からも大きく影響を受けていることが見えてきた。

(5)日本におけるフレーベル教育学受容に大きな役割を果たした倉橋惣三は、フレーベル教育学を日本で実践に移すに際して「教育」と「保育」の連関に注目するが、この視座は新教育運動における「感性教育」と「身体教育」に関わる発想を福祉の分野に敷衍するものであり、そこには新教育運動のメインストリームでは注目されない階層の子どもたちに対する新しい理論・実践の萌芽が確認される。

(6)新教育運動がナチス政権下の教育に関与したかというテーマは、ドイツの教育学研究において今日に至るまで不断に継承されてきている。その担い手としてはしかし、時代の証人から次世代へとバトンタッチされつつある。現代における研究動向を検証すると、従来みられた主観というフィルターを介した解釈から解放されるという肯定的な変容がみられると同時に、時代の証人の資料の管理が誰に委ねられているかによって解釈に制限を受ける負の側面も見られる。

(7)1924年にイェナ大学附属学校で誕生したイェナ・プランは、戦前・戦中・戦後とめまぐるしく政策の転換するなか、そのそれぞれの時代にあってその時代を牽引する教育構想であり続けた。多様な政策のなかで変わら

ぬ影響力を發揮しえた背景には、ペーターゼン教育学に横たわる「感性教育」と「身体教育」の関わりに対する柔軟性が大きな役割を果たしていることが指摘されうる。

(8) 田園教育者運動を代表する教育家のひとりゲヘープは、いずれも今日にいたるまで健在であるオーデンヴァルト学校およびエコール・デュマニテを設立するが、その教育実践は「共学制」や「国際性」や「超宗派性」といった趣旨をかかげることによって他の田園教育舎とは一線を画している。そ一方で、ゲヘープのもつ「感性教育」と「身体教育」の関わりについての発想には、当時強い影響力をもっていた心身問題への姿勢を独特の解釈を付与しながら受容していった形跡がみられる。

(9) ドイツ田園教育舎運動に関わったゲヘープが設立したオーデンヴァルト学校は、1910年の設立当時から一貫して教育関係者にとって目指すべき教育の象徴として君臨してきた。しかし、設立 100 周年を迎える 2010 年、オーデンヴァルト学校は一転して「教師による生徒への暴行事件」というスキャンダルに揺れることになり、その不祥事の一因がゲヘープのもつ「感性教育」と「身体教育」の関わりを強調する教育構想にあると断罪される。ゲヘープの生前の発言と今回の事件の事実関係の精査から、この因果性の指摘は必ずしも説得力をもつものではないことがわかる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① Toshiko Ito, Das Religiöse als unentbehrlicher Bestandteil des japanischen Bildungskonzepts: Wandel und Kontinuität, Seminar, 査読有, 2012 (掲載決定)
- ② 伊藤敏子、新教育運動における心身教育論の来歴: 時代精神の地平から、三重大学教育学部研究紀要、査読無、63 巻、2012、255-266
- ③ Toshiko Ito, Transzendenz und Orientalismus in der Reformpädagogik: Eine Fallstudie zur Kooperation zwischen Werner Zimmermann und Kuniyoshi Obara, International Journal for the Historiography for Education, 査読有, 2, 2012, 36-50
- ④ Toshiko Ito, New education for under privileged children: The codification of children's rights in Japanese law,

Paedagogica Historica, 査読有, 48, 2012, 153-167

- ⑤ Toshiko Ito, Das Kaiserbildnis und die Förderung der nationalen Gesinnung: Eine Fallstudie zu Erziehungsmaterialien in japanischen Schulen zwischen 1890 und 1945, Pädagogische Rundschau, 査読有, 65, 2011, 577-589
- ⑥ 伊藤敏子、新教育における心身論と教育愛の連関: オーデンヴァルト学校設立 100 周年に寄せて、三重大学教育学部研究紀要、査読無、62 巻、2011、257-267
- ⑦ Toshiko Ito, Historian and the Present: On Marc Depaepe's Decalogue, Zeitschrift für Pädagogische Historiographie, 査読無, 16, 2010, 43-45
- ⑧ 伊藤敏子、田園教育舎と心身問題: オーデンヴァルト学校からエコール・デュマニテへの推移に注目して、人間形成と文化、査読無、7 巻、2010、179-189
- ⑨ 伊藤敏子、ペーターゼン教育学における心身問題の射程: イエナ・プランにみる心と身体の接点から、三重大学教育学部研究紀要、査読無、61 巻、2010、167-179
- ⑩ 伊藤敏子、新教育運動とナチズムの関係をめぐる研究の展開、近代教育フォーラム、査読無、18 巻、2009、285-288

[学会発表] (計 3 件)

- ① Toshiko Ito, Ideal und Realität von der langjährigen Kooperation zwischen Werner Zimmermann und Kuniyoshi Obara, 2011 (ドイツ教育学会教育史研究分科会、2011 年 9 月 17 日スイス・バーゼル・北西スイス教育大学)
- ② Toshiko Ito, Discovery of Childhood in Japanese Judicial Policy 1907-1923, 2010 (国際教育史学会、2010 年 8 月 26 日オランダ・アムステルダム・アムステル大学)
- ③ Toshiko Ito, Devotional Objects Promoting National Identity in Schools During Japan's Imperial Era 1890-1945, 2009 (ドイツ教育学会教育史研究分科会、2009 年 9 月 19 日ドイツ・マルバツハ・ドイツ文学記録保存館)

[図書] (計 2 件)

- ① Hans-Ulrich Grunder, Andreas Hoffmann-Ocon, Peter Metz, Toshiko Ito 他, Kooperationen und Netzwerke in bildungshistorischer Perspektive, Weinheim/Basel: Belz 2012 (掲載決定)
- ② Helmut Heiland, Margitta Rockstein, Karl Neumann, Toshiko Ito 他, Fröbels

Erbe: >Kommt, lasst uns unsern Kindern
leben!<, Bad Blankenburg: Fröbel
Museum 2010, 232 (Ito 担当部分は
165-183)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 敏子 (ITO TOSHIKO)

三重大学・教育学部・教授

研究者番号：20269129